

4 花き

1) 使用方法

作物名	薬 剤 名	備 考
きく	オキシベロン液剤 (イントール酢酸液剤、IBA0.4%)	○ 浸漬は、さし穂基部 2～3cm とする。
	エスレレ 1 0 (エチホン液剤、 2-クロルエチルホスホン酸 10%)	○ 調製には必ず水道水、井戸水を使用し、展着剤は加用しない。 ○ 調製した薬液は、その日のうちに使用する。 ○ 他の薬剤との混用及び同日散布は避ける。 ○ 散布直後に降雨があっても、再散布はしない。
	ジベラ錠 (ジベレリン水溶剤、ジベレリン 3.58%) ジベレリン粉末 (ジベレリン水溶剤、ジベレリン 3.1%) ジベレリン液剤 (ジベレリン液剤、ジベレリン 0.5%) ジベレリン (ジベレリン水溶剤、ジベレリン 3.1%)	○ 薬液は使用の都度調製し、その日のうちに使用する。 ○ 調製した薬液はなるべく日陰に置く。 ○ 処理の際には花蕾のある中心部めがけて噴霧する。
きく (電照栽培)	エスレレ 1 0 (エチホン液剤、 2-クロルエチルホスホン酸 10%)	○ 調製には必ず水道水、井戸水を使用し、展着剤は加用しない。 ○ 調製した薬液は、その日のうちに使用する。 ○ 他の薬剤との混用及び同日散布は避ける。 ○ 散布直後に降雨があっても、再散布はしない。
きく (切花用) (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶剤 (タミノジツト水溶剤、タミノジツト 80%)	○ 徒長防止では、作物の生長点を中心に葉面散布する。
きく (切花用) (施設栽培)	キクエモン (タミノジツト水溶剤、タミノジツト 85%)	○ 作物の生長点を中心に葉面散布する。
きく (ポットマム) (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶剤 (タミノジツト水溶剤、タミノジツト 80%)	○ 徒長防止では、作物の生長点を中心に葉面散布する。 ○ 5～10ml/5 号鉢
きく (ポットマム) (施設栽培)	キクエモン (タミノジツト水溶剤、タミノジツト 85%)	○ 作物の生長点を中心に葉面散布する。 ○ 2 回散布する場合は、1 回目散布を 400 倍で行う。 ○ 5～10ml/5 号鉢
きく (ポットマム)	スミセブン P 液剤 (ウニコザール P 液剤、ウニコザール P 0.025%)	○ 使用薬量が多くなるほど開花時期が遅れる傾向がある。
カーネーション	オキシベロン液剤 (イントール酢酸液剤、IBA0.4%)	○ 浸漬はさし穂基部 2～3cm とする。
トルコギキョウ	ジベラ錠 (ジベレリン水溶剤、ジベレリン 3.58%) ジベレリン粉末 (ジベレリン水溶剤、ジベレリン 3.1%) ジベレリン液剤 (ジベレリン液剤、ジベレリン 0.5%) ジベレリン (ジベレリン水溶剤、ジベレリン 3.1%)	○ 薬液は使用の都度調製し、その日のうちに使用する。 ○ 調製した薬液はなるべく日陰に置く。 ○ 処理の際には花蕾のある中心部めがけて噴霧する。
ストック	ビビフルフロアブル (プロヘキサジオンカルシウム塩水和剤、プロ	○ 100ℓ /10a

	ヘキサジオンカルシウム塩 1%)	
作物名	薬 剤 名	備 考
シクラメン	ジベラ錠 (ジベレリン水溶液、ジベレリン 5.8%) ジベレリン粉末 (ジベレリン水溶液、ジベレリン 3.1%) ジベレリン液剤 (ジベレリン液剤、ジベレリン 0.5%) ジベレリン (ジベレリン水溶液、ジベレリン 3.1%)	○ 薬液は使用の都度調製し、その日のうちに使用する。 ○ 調製した薬液はなるべく日陰に置く。
ポインセチア (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶液 (タミジット水溶液、タミジット 80%)	○ 徒長防止では、作物の生長点を中心に葉面散布する。 ○ 50～150ℓ /10a
ポインセチア	スミセブンP液剤 (ウニコザールP液剤、ウニコザール P0.025%)	○ 使用薬量が多くなるほど開花時期が遅れる傾向がある。 ○ 5～10ml/5 号鉢
はばたん (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶液 (タミジット水溶液、タミジット 80%)	○ 子葉展開後から使用する場合、1 回目はは種後 10 日目、2 回目は は種後 20 日目を目安に散布する。 ○ 徒長防止では、作物の生長点を中心に葉面散布する。 ○ 50～150ℓ /10a
プリムラ (マラコイデス)	ジベラ錠 (ジベレリン水溶液、ジベレリン 3.58%) ジベレリン粉末 (ジベレリン水溶液、ジベレリン 3.1%) ジベレリン液剤 (ジベレリン液剤、ジベレリン 0.5%) ジベレリン (ジベレリン水溶液、ジベレリン 3.1%)	○ 薬液は使用の都度調製し、その日のうちに使用する。 ○ 調製した薬液はなるべく日陰に置く。
ペチュニア (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶液 (タミジット水溶液、タミジット 80%)	○ 鉢上げ後に使用する場合、1 回目は鉢上げ 1 週間後を目安に散 布し、2 回目以降は 1～2 週間程度の間隔で散布する。 ○ 徒長防止では、作物の生長点を中心に葉面散布する。 50～150ℓ /10a
花き類・観葉植物 (カーネーショ ン、きく及びチュ ーリップを除く)	オキシベロン液剤 (イントール酸液剤、IBA0.4%)	○ 浸漬はさし穂基部 2～3cm とする。
花き類(りんどう を除く)	ジベラ錠 (ジベレリン水溶液、ジベレリン 5.8%) ジベレリン粉末 (ジベレリン水溶液、ジベレリン 3.1%) ジベレリン液剤 (ジベレリン液剤、ジベレリン 0.5%) ジベレリン (ジベレリン水溶液、ジベレリン 3.1%)	○ 薬液は使用の都度調製し、その日のうちに使用する。 ○ 調製した薬液はなるべく日陰に置く。

【注意】表中「使用回数」は各農薬（商品）ごとの使用回数の上限を示した。農薬使用に当たっては必ず農薬容器のラベルを確認し、有効成分ごとの総使用回数を遵守すること。